



目指す学校教育の実現に向けた取り組み

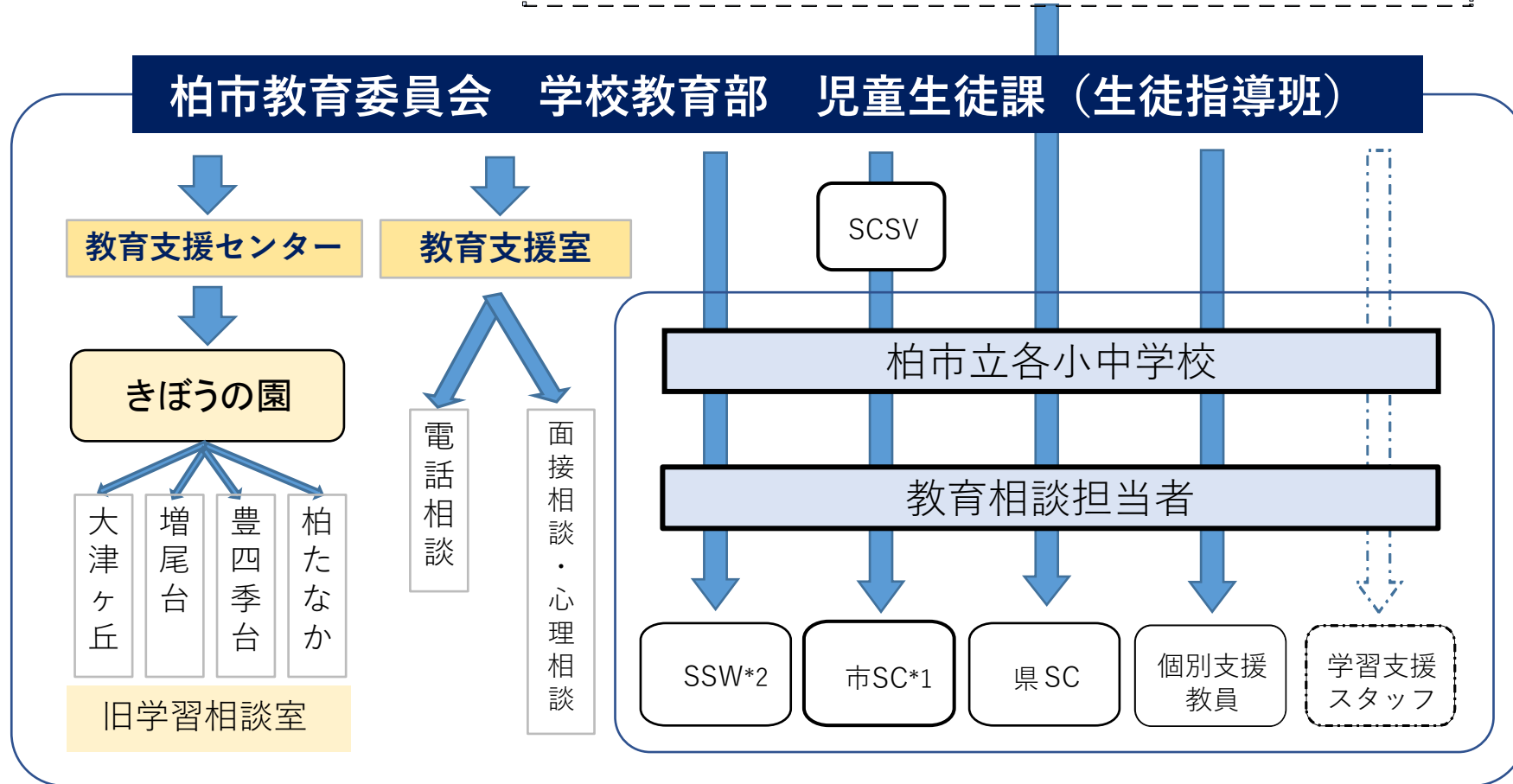
3-1 安全・安心な居場所づくり 「不登校児童生徒への支援」

再掲



柏市教育相談体制

千葉県教育委員会 教育振興部 児童生徒安全課



教育支援センター

不登校児童生徒やその保護者に対し、学習支援や教育相談、訪問相談を行うことで学校と家庭以外の居場所として機能し、社会的な自立につなげる。

- きぼうの園（旧青少年センター内）
 - ・教員免許を有する指導員配置
- 大津ヶ丘（大津ヶ丘第二小学校内）
- 増尾台（増尾西小学校内）
- 豊四季台（柏第六小学校内）
- 柏たなか（田中北小学校内）

教育支援室

教育相談員や教育相談心理士（臨床心理士・公認心理師資格を有するカウンセラー）が幼児、小学生、中学生の教育・子育てに関する相談活動（進路、不登校、発達全般、親子関係など）

- 電話相談
 - ・電話相談
 - ・面接予約
- 面接相談
 - ・心理面接
 - ・発達検査

*1 SC：スクールカウンセラー

…児童生徒及びその保護者の心の悩み等を中心にカウンセリングを行い、その心の安定を図り、学校教育親展の一助となす

*2 SSW：スクールソーシャルワーカー

…「子どもの最善の利益」を優先し、児童生徒一人一人の生活の質を向上、学ぶ権利の保証とそれを支える学校・地域をつくる

3-2 安全・安心な居場所づくり 「教育相談の充実」



解消率

	R5.3.31	R5.8.31	R5.12.31
小学校	66.6%	98.6%	99.8%
中学校	74.0%	98.6%	99.8%
高等学校	72.2%	72.2%	100%

いじめ解消の定義

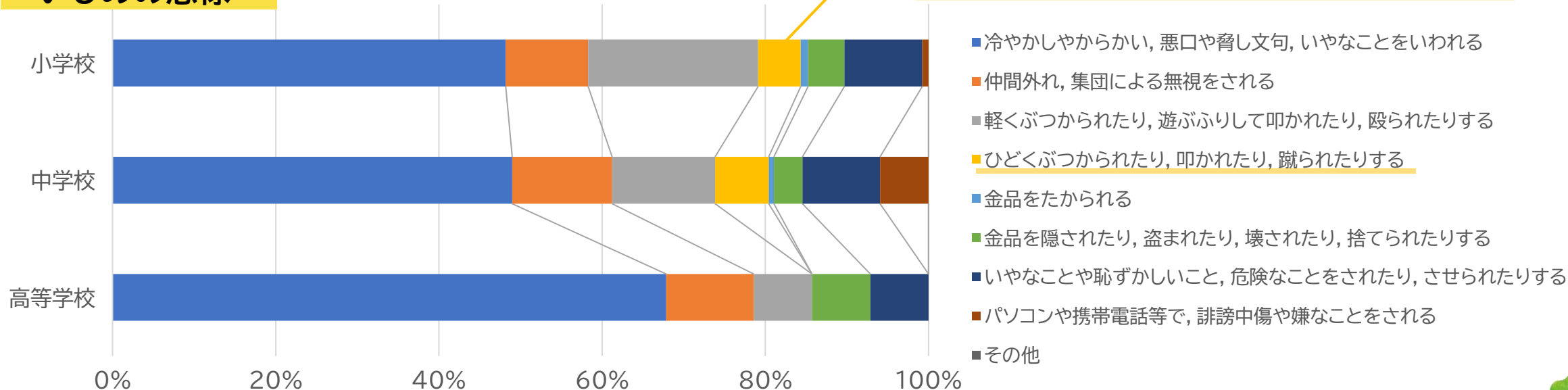
①被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）が止んでいる状態が相当の期間継続していること。この相当の期間とは、**少なくとも3か月**を目安とする。

②被害児童生徒が**心身の苦痛を感じていないこと**

文部科学省「いじめの防止等のための基本的な方針」より

追跡調査により、解消率は大幅に向上

いじめの態様





いじめの 定義

当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等、一定の人的関係のある他の児童生徒が行う、心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。

出典：いじめ防止対策推進法

いじめの防止等のための基本的な方針(文部科学省)

いじめの防止等のために地方公共団体等が実施すべき施策

1. 地方いじめ防止基本方針の策定

国の基本方針を参考に、地方いじめ防止基本方針を定めることが望ましい

2. いじめ問題対策連絡協議会の設置

いじめ問題対策連絡協議会を設置することが望ましく、その構成員は、地域の実情に応じて決定

3. 第14条第3項に規定する教育委員会の附属機関の設置

- ・地域の実情に応じ、附属機関を設置することが望ましい
- ・この附属機関には、専門的な知識及び経験を有する第三者等の参加を図り、公平性・中立性が確保されるよう努めることが必要

4. 地方公共団体等が実施すべき施策

- ・地方公共団体等として実施すべき施策、学校の設置者として実施すべき施策
- ・いじめの未然防止や早期発見等の取組等を教員評価、学校評価に位置付ける

いじめの防止等のために学校が実施すべき施策

1. 学校いじめ防止基本方針の策定

国や地方公共団体の基本方針を参考に、自らの学校として、どのようにいじめの防止等の取組を行うかについての基本的な方向、取組の内容等を定める

2. 学校におけるいじめの防止等の対策のための組織

- ・学校におけるいじめの防止・早期発見・対処等、組織的な対応を行うため中核となる常設の組織。必要に応じて、外部専門家（弁護士、医師、警察OB等）等が参加しながら対応
- ・いじめに関するささいな兆候や懸念、児童生徒からの訴えを、教職員で抱え込まずに全て当該組織に報告・相談し、当該組織を中核として組織で対応

3. 学校におけるいじめの防止等に関する措置

- i) いじめの防止
- ii) 早期発見
- iii) いじめに対する措置

3-2 安全・安心な居場所づくり 「教育相談の充実」



報告・相談プラットフォーム

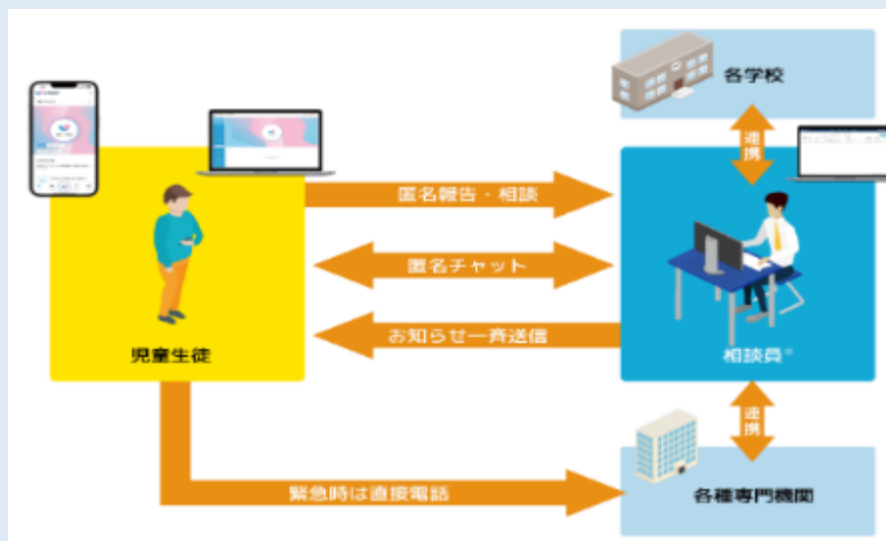
「STANDBY」

児童生徒がいじめ等で悩んでいるときに、スマートフォンやタブレットの「STANDBY」アプリから、自治体や学校が設けた専門の相談員に匿名で報告・相談できるもの。いじめ等の問題について、早期発見・早期対応ができる。

市内小5～高3までの児童生徒が登録済み。

【令和5年度実績】

- ・ 300件を超える相談，2,000件を超えるチャット数
- ・ 令和6年度より，相談業務の委託を実施



出典：スタンバイ株式会社ホームページより

こころとからだのWEB健康観察・アンケートアプリ

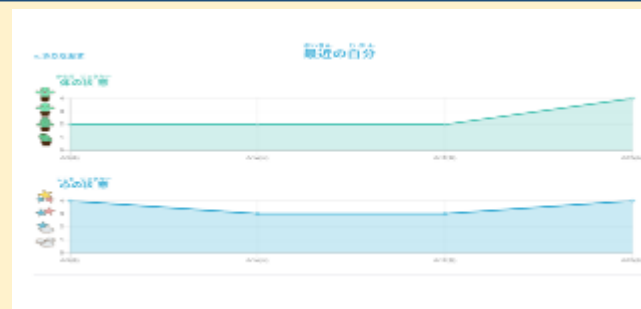
「シャボテンログ」

シャボテンログは、児童生徒が毎日または定期的なアンケートに回答することで、子どもが自身の自己管理能力を高めることや、学校が子どもの不調を予見することを目指したもの。

文部科学省でも推進されており、実施校は年々増加している。導入については、趣旨について学校長から賛同いただいて学校から実施している。



↑ 児童生徒の回答



2年2組のダッシュボード
2022年6月23日(木)

項目	項目名	項目値	項目単位	項目説明	項目単位	項目説明
1	1年2組のダッシュボード	100	100%	1年2組のダッシュボード	100%	1年2組のダッシュボード
2	2年2組のダッシュボード	100	100%	2年2組のダッシュボード	100%	2年2組のダッシュボード
3	3年2組のダッシュボード	100	100%	3年2組のダッシュボード	100%	3年2組のダッシュボード
4	4年2組のダッシュボード	100	100%	4年2組のダッシュボード	100%	4年2組のダッシュボード
5	5年2組のダッシュボード	100	100%	5年2組のダッシュボード	100%	5年2組のダッシュボード

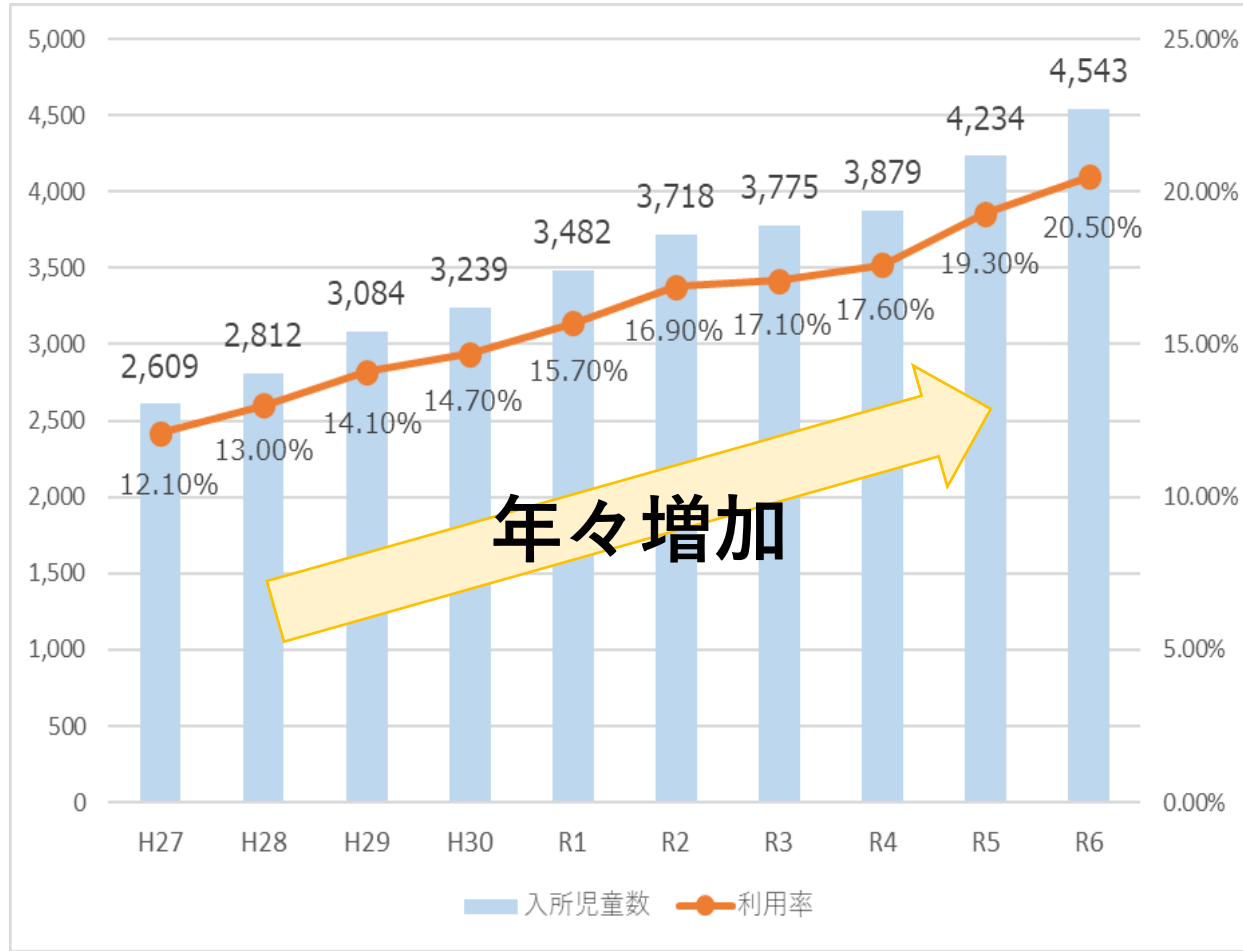
教師用管理画面→

出典：経済産業省「未来の教室～learning innovation～」より

3-3 安全・安心な居場所づくり 「子どもの居場所」



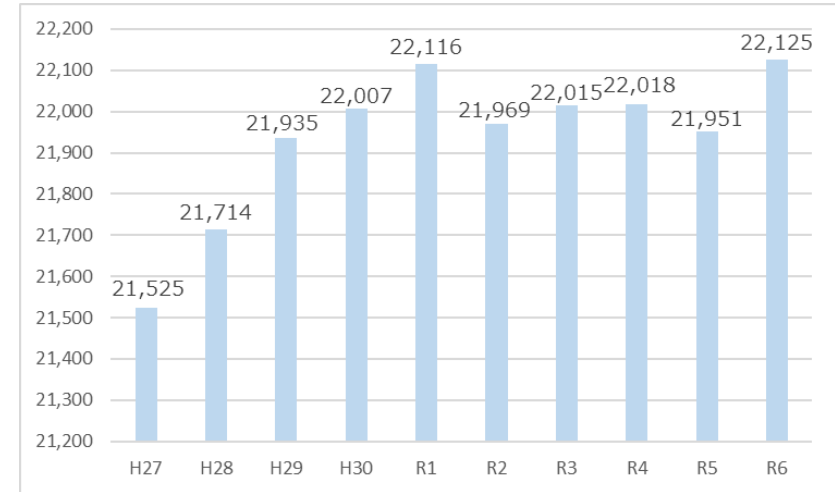
こどもルームの入所児童数と利用率の推移



年々増加

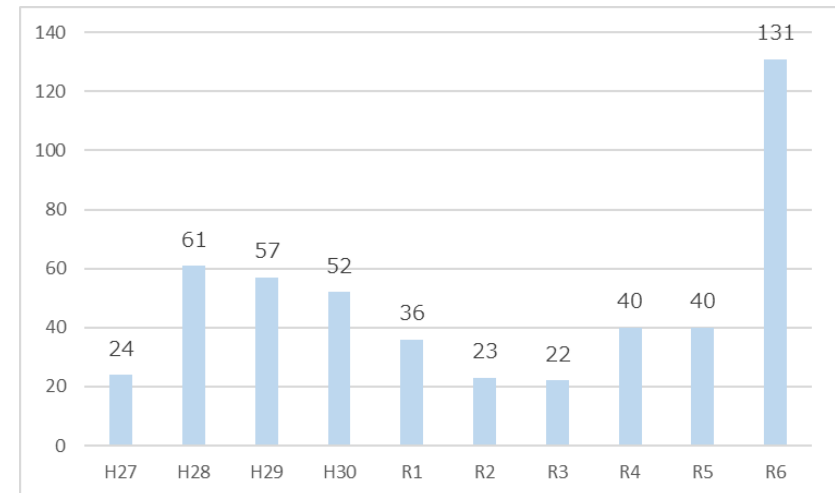
(各年5月1日時点)

全児童数の推移



(各年5月1日時点)

入所保留児童数の推移



(各年5月1日時点)

放課後子ども教室の現状

(1) 放課後子ども教室【補充学習型】 (ステップアップ学習会)

平日の放課後に小学校の余裕教室等を利用し、学習意欲の向上と学習習慣の定着を目的に実施。



< 令和5年度実績 >

実施校	平均実施日数	登録者数	参加率
40校	17.6日	2,065名	41.2%

(2) 放課後子ども教室【体験型】

平日の放課後に、民間団体や高校等の地域資源と連携して体験型のイベントを実施。



< 令和5年度実績 >

実施校	延べ実施日数	延べ参加者数
3校	61日	1,241名

(3) 夏休み子ども教室

夏休み期間に、小学校の余裕教室や公共施設等を利用し、子どもの知的好奇心を引き出すことを目的に体験学習講座を実施。



< 令和5年度実績 >

講座数	延べ受講者数
58講座	955名

3-3 安全・安心な居場所づくり 「子どもの居場所」



放課後子ども教室【居場所型】（新規）

背景

毎日利用できる
居場所が欲しい

- ・ 小4～6の居場所
- ・ 週1回ではない居場所

学校で宿題まで
やってきて欲しい

- ・ 放課後1～2時間くらい
学習できる場所

遊び場がない

- ・ 自由に思い切り遊べる
場が行動範囲にない

（ステップアップ学習会に関する保護者アンケートより）

小学校の余裕教室や特別教室等を利用し、スタッフのゆるやかな見守りのなか、**平日放課後に全ての子どもが自分らしく過ごせる安全・安心な居場所**を整備。

令和6年度にモデル校で実施し、**今後6年間で、全校での実施**を図る。

児童の過ごし方（イメージ）

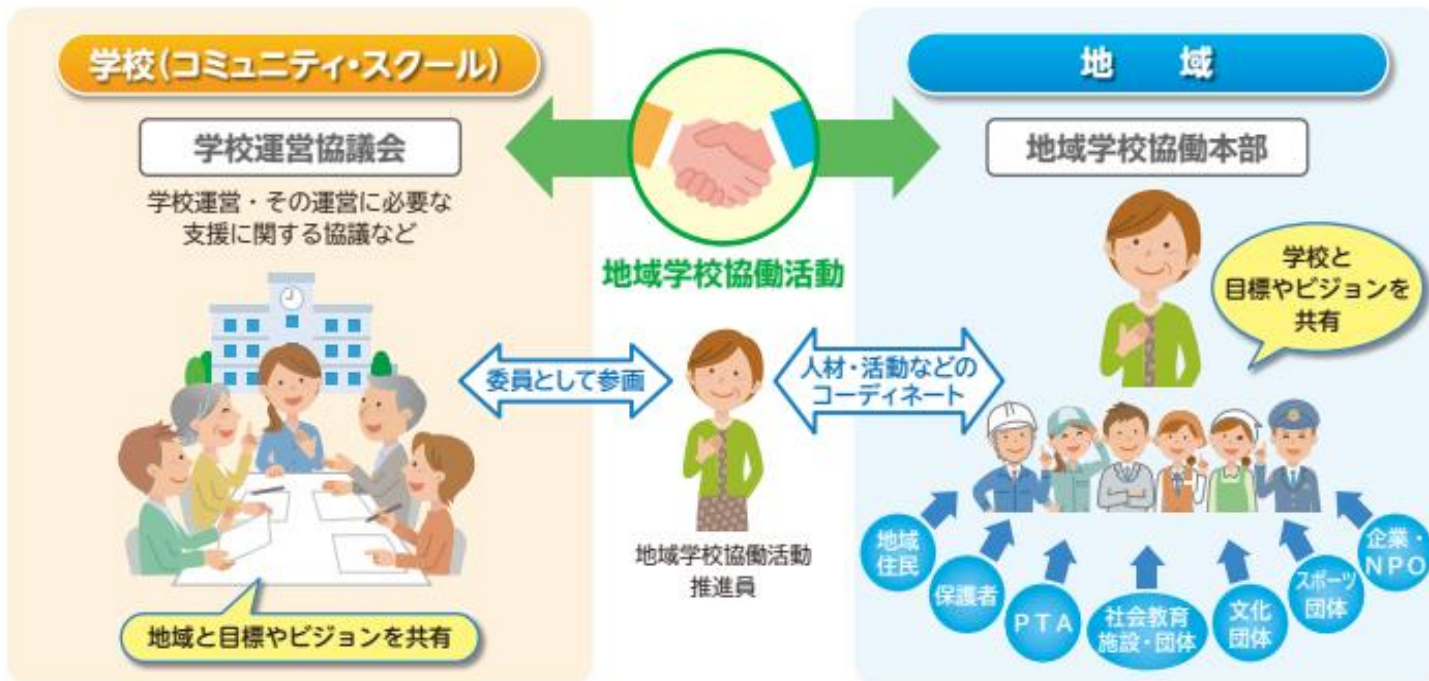


余裕教室や特別教室では、スタッフのゆるやかな見守りのなか、読書や宿題、工作、学校にあるゲーム等をして過ごす



体育館等で、学校の備品等を利用し、体験型プログラムを行う

4-1 家庭・地域とともに 「コミュニティ・スクールの活性化」



出典：文部科学省「これからの学校と地域」より

柏市のコミュニティ・スクールの主な目的

- ① 子どもたちの豊かな学びのために
地域の方の力を学校教育に取り入れたい
⇒ 「学びをつなぐ」
「小中一貫教育の推進」
- ② 地域に学校を核とした世代間のつながり
をつくりたい
⇒ 「家庭・地域とともに」
- ③ 教職員が「子どもたちと向き合う時間」
を確保したい
⇒ 「生き生きと働き 学び続ける教職員」
「子どもと向き合う時間の確保」

<柏市の取組状況>

令和元年度：コミュニティ・スクールの取組みを開始
5年度：全小中学校に学校運営協議会を設置完了
⇒ **全小中学校がコミュニティ・スクール**へ
～参考（公立学校の導入率，R5.5時点）～
全国平均52.3%，千葉県平均33.1%

<今後の方向性>

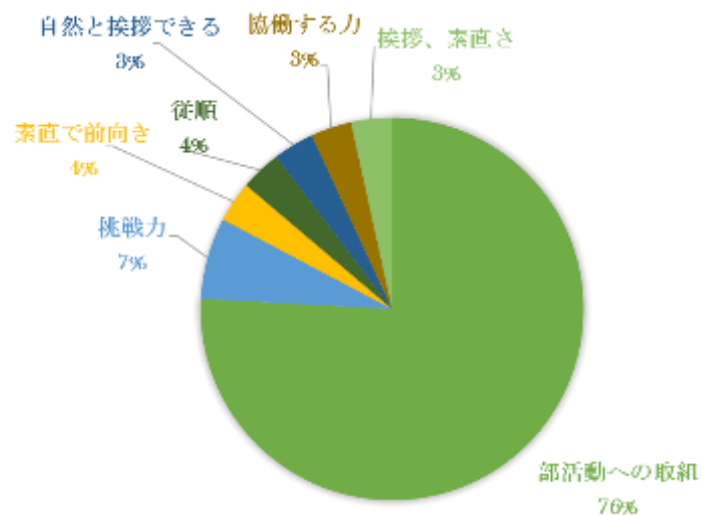
「全小中学校設置」という目標を達成，
これからは「**地域学校協働活動の充実**」へ
・地域学校協働活動推進員の配置，拡充
・研修等を通じた好事例の横展開
・学校 ⇄ 地域の相互貢献

4-2 家庭・地域とともに 「市立柏高等学校の魅力化」



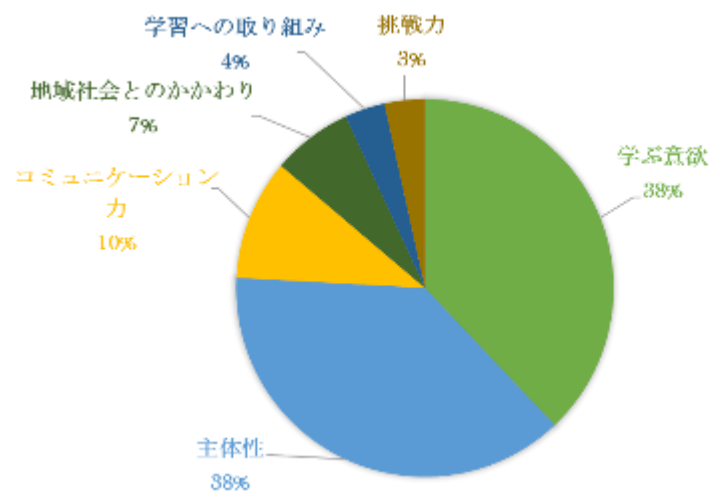
市立柏高等学校アンケートより（令和6年5月 市立柏高等学校教職員対象に実施）

1 市立柏高校の生徒の最もよいところを1つ選択してください



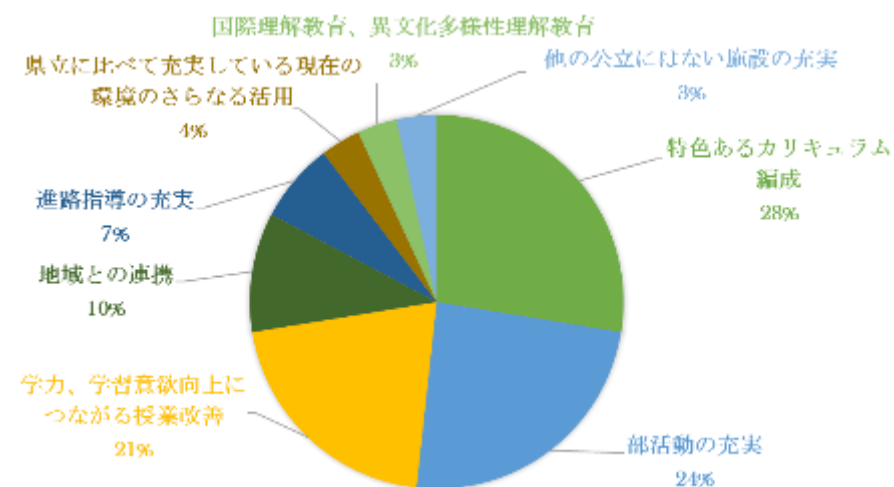
回答	人数
部活動への取組	22
挑戦力	2
素直で前向き	1
従順	1
自然と挨拶できる	1
協働する力	1
挨拶、素直さ	1

2 市立柏高校の生徒の課題を1つ選択してください



回答	人数
学ぶ意欲	11
主体性	11
コミュニケーション力	3
地域社会とのかかわり	2
学習への取り組み	1
挑戦力	1

3 今後、最も充実させべき教育活動を1つ選択してください。



4-2 家庭・地域とともに 「市立柏高等学校の魅力化」



国際理解教育・異文化理解教育（令和5年実施）



トーランス北高校との交流



中国承德高校とのZoom交流

- トーランス北高校との相互訪問や姉妹校とのオンライン交流を実施
- ホームステイを含む語学研修の実施(令和5年度 54名)
- 国際教養クラスでのイングリッシュ・キャンプの実施

4-2 家庭・地域とともに 「市立柏高等学校の魅力化」



インターンシップ活動の様子（令和5年度実施）

消防署



増尾保育園



市立柏病院



令和5年度インターンシップ(合計43名)

□消防	18人	□オックス	8人
□保育園	4人	□病院	12人
□介護施設	1人		

4-2 家庭・地域とともに 「市立柏高等学校の魅力化」



ソーシャルチェンジ（令和6年度実施）



副市長，教育長を招いて，柏市政に関するプレゼンテーションを実施



柏市は中核市なので、
法定研修及び一部の
教員研修が千葉県から
委譲されている

立場の変化

アップデート

新任校長研修

新任教頭研修

18年目～20年目

中堅教諭等資質
向上研修Ⅱ

※2015年度以降採用

10年目

中堅教諭等資質
向上研修Ⅰ

3校目

自分の方向性を考える

1年目

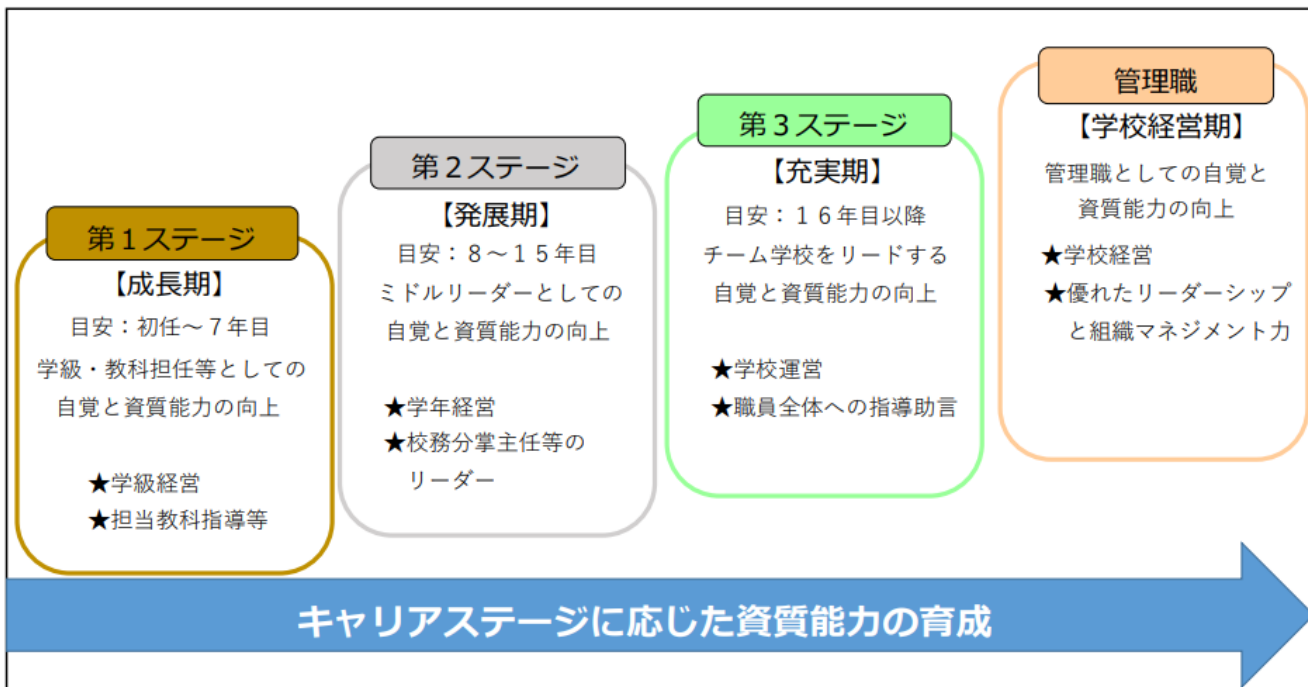
3年目

2校目

1校目

初任者研修
(1～3年目)

体系的・計画的な研修体系の構築



5-2 生き生きと働き 学び続ける教職員 「教職員研修の充実」



事業目標

人材育成の拠点となり、柏市教職員人材育成指針及び指標に基づく、教職員の資質能力の向上を通して、「柏市の教育」の推進を図る。

【重点1】研修転移

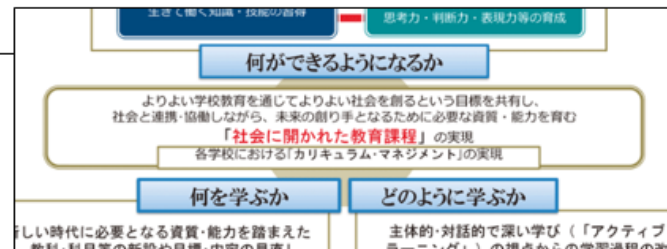
- ・研修講師への働きかけ
- ・管理職への働きかけ、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励
- ・リマインドメールの活用
- ・校外研修と校内研修のつながり強化



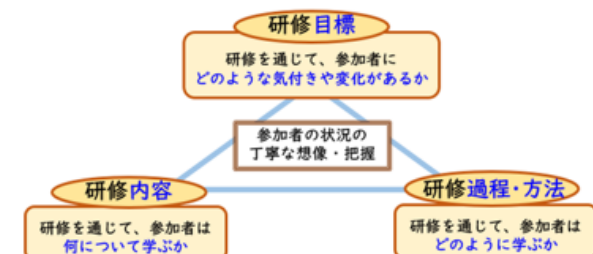
気付き → 実践 → インパクト

【重点2】研修観の転換

- ・教師の学びと子どもの学びは「相似形」
⇒「どのような気付きや変化があるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」
- ・教職員を「主語」とした研修
- ・「現場の経験」を重視した学び
- ・豊かな気付きの醸成



＜参加者を主語にした「研修デザインの三角形」＞





【重点3】年次研修の体系化

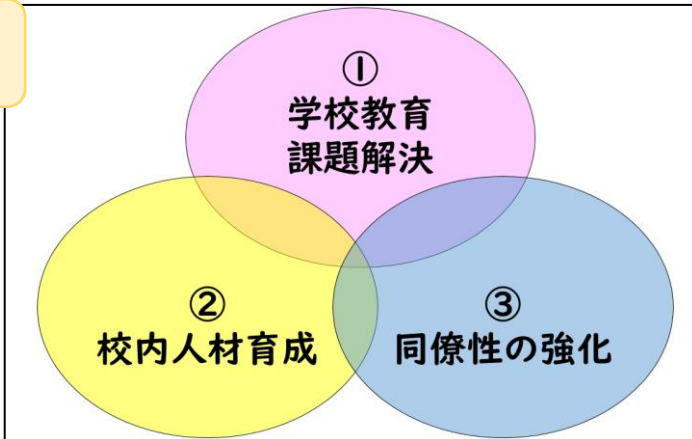
	マネジメント力	アクションプラン
初任者研修	授業力, 学級・教科経営	1学期の自己の課題解決に向けて 2学期にテーマを決めて取り組む
2年目研修	授業改善, 課題解決力	自己の課題解決に向けて, 年間を通して校内研修に取り組む
3年目研修	校務分掌, 課題解決力 個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた授業改善	自己の課題解決に向けて, 年間を通して校内研修に取り組む
5年目研修	主体的に学校組織に貢献するフォロワーの育成	
中堅教諭等 資質向上研修 I	校内それぞれのポジションに応じ, 自己の強みを生かしたリーダーシップの獲得・発揮	学校の教育課題解決に向けて, 校務推進の課題を設定し, 年間を通してチームで取り組む

- ・年次研修の縦の内容をつなぎ, それぞれのキャリアステージに合った研修内容を組んでいく。
- ・各年次研修の横の内容をつなぎ, 1年の学びをつないでいく。
- ・研修を通じて, 各教員がキャリアデザインを描ける意識をもてるようにする。



アクションプラン実践研修の実施

アクションプラン
のねらい



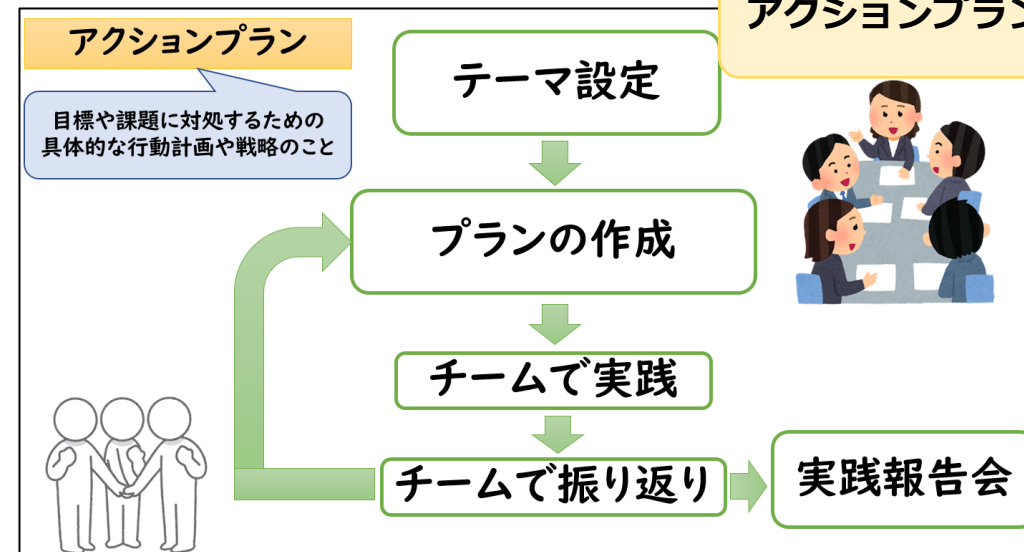
アクションプランの体系

初任者研修	自己の課題を見つけ、課題解決に取り組む	 周囲からの支援やサポート
3年目研修	学校教育目標から自己の課題を見つけ、周囲に自ら働きかけ協働しながら教育課題を解決する	 周囲に自ら働きかけて協働する
中堅教諭等 資質向上研修 I	①学校教育課題解決 ②ミドルリーダーシップの発揮 ③校内人材育成・同僚性の強化	 教育課題の解決 チーム ＜結果＞ チームとしての成長が得られる
新任管理職 研修 (新任校長・新任教頭)	(新任教頭) 人材育成を中心とした協働的な組織体制 (新任校長) 学校経営力や組織としての課題解決力向上	

校内に広まってほしい姿



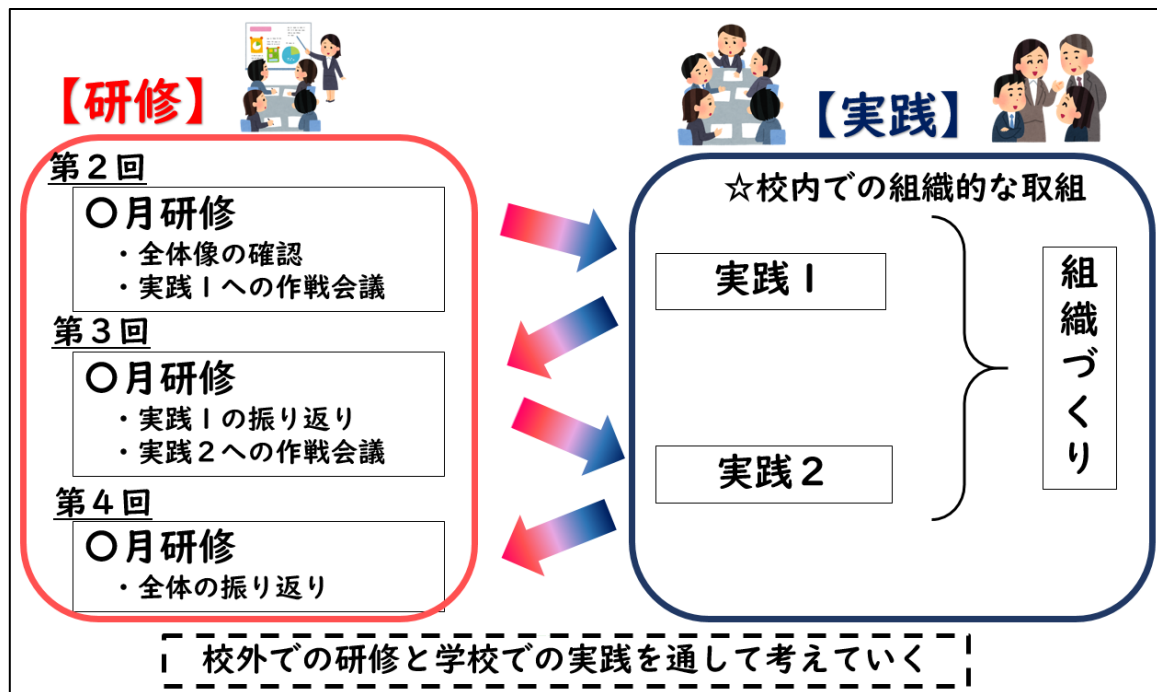
アクションプランの流れ



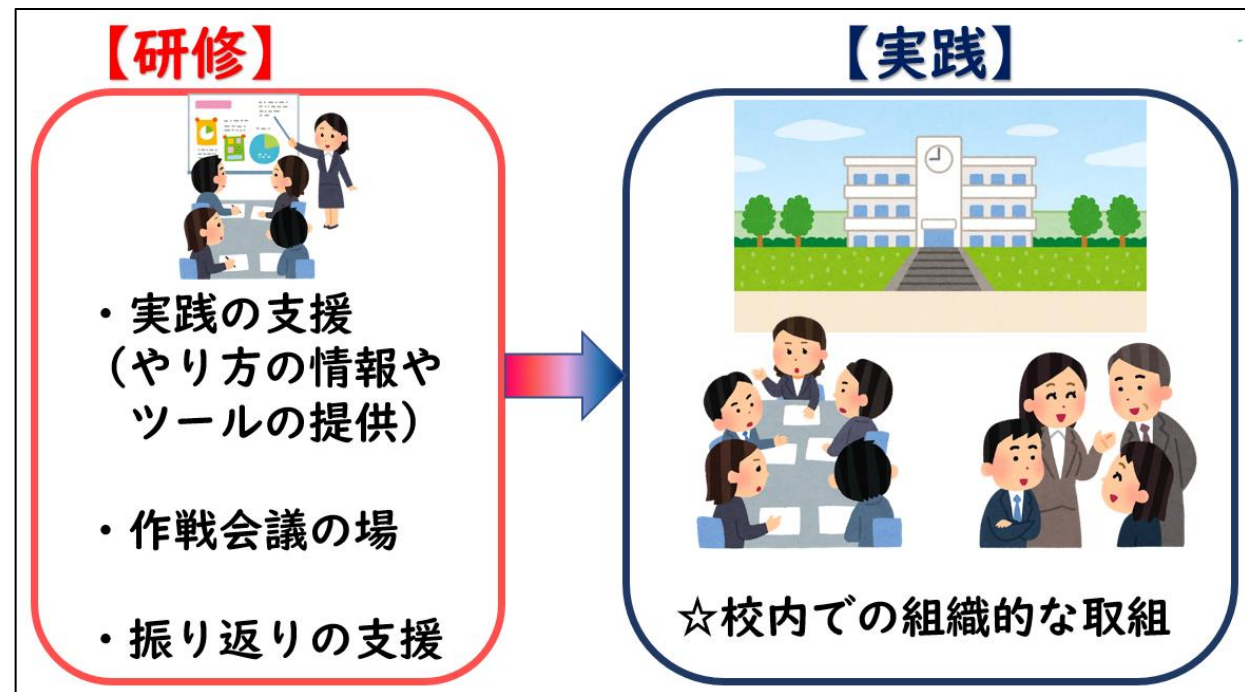


研修と実践との往還

研修の進め方のイメージ



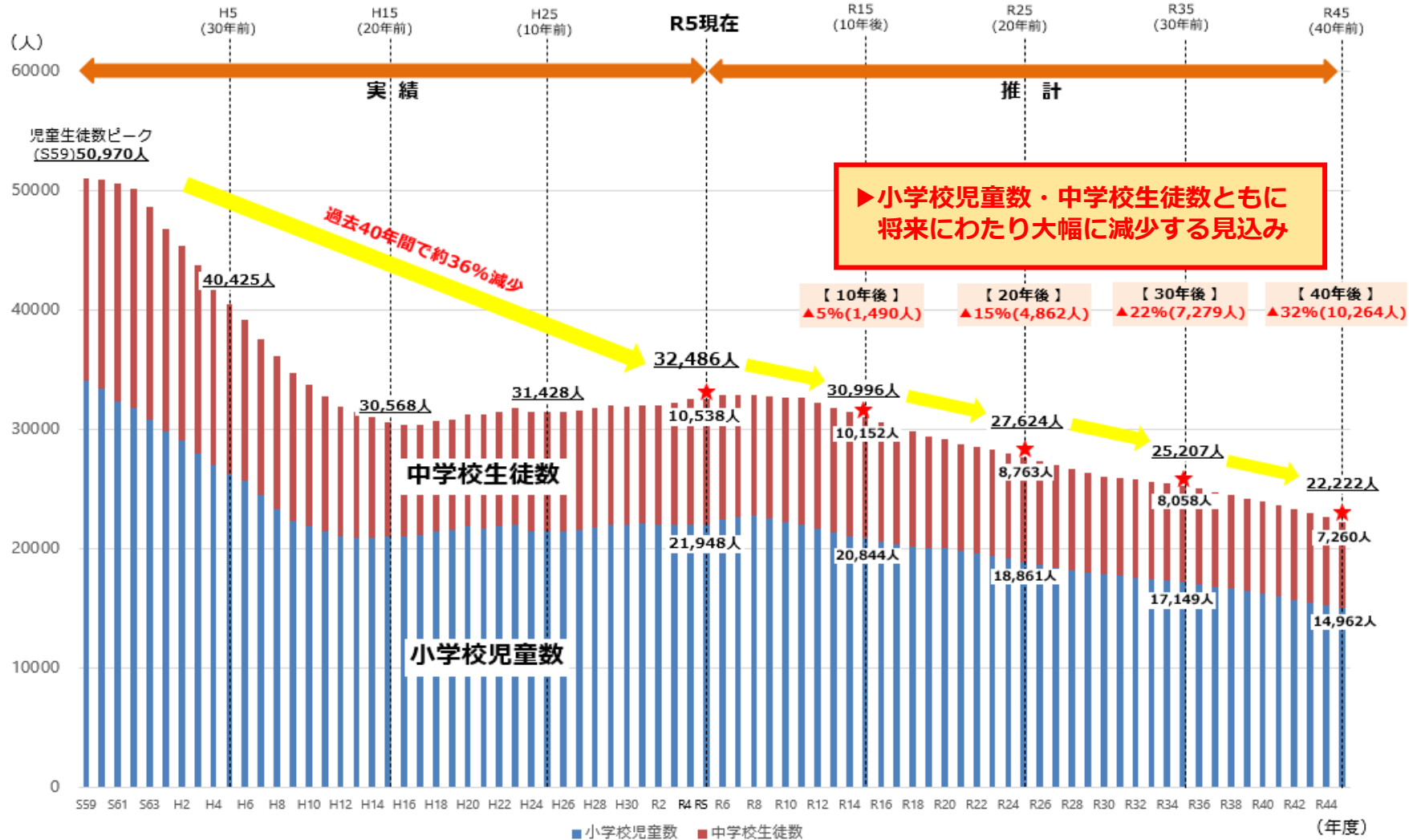
校外での研修と学校での実践の関係



6-1 学びを支える教育環境 「将来を見据えた学校のあり方」



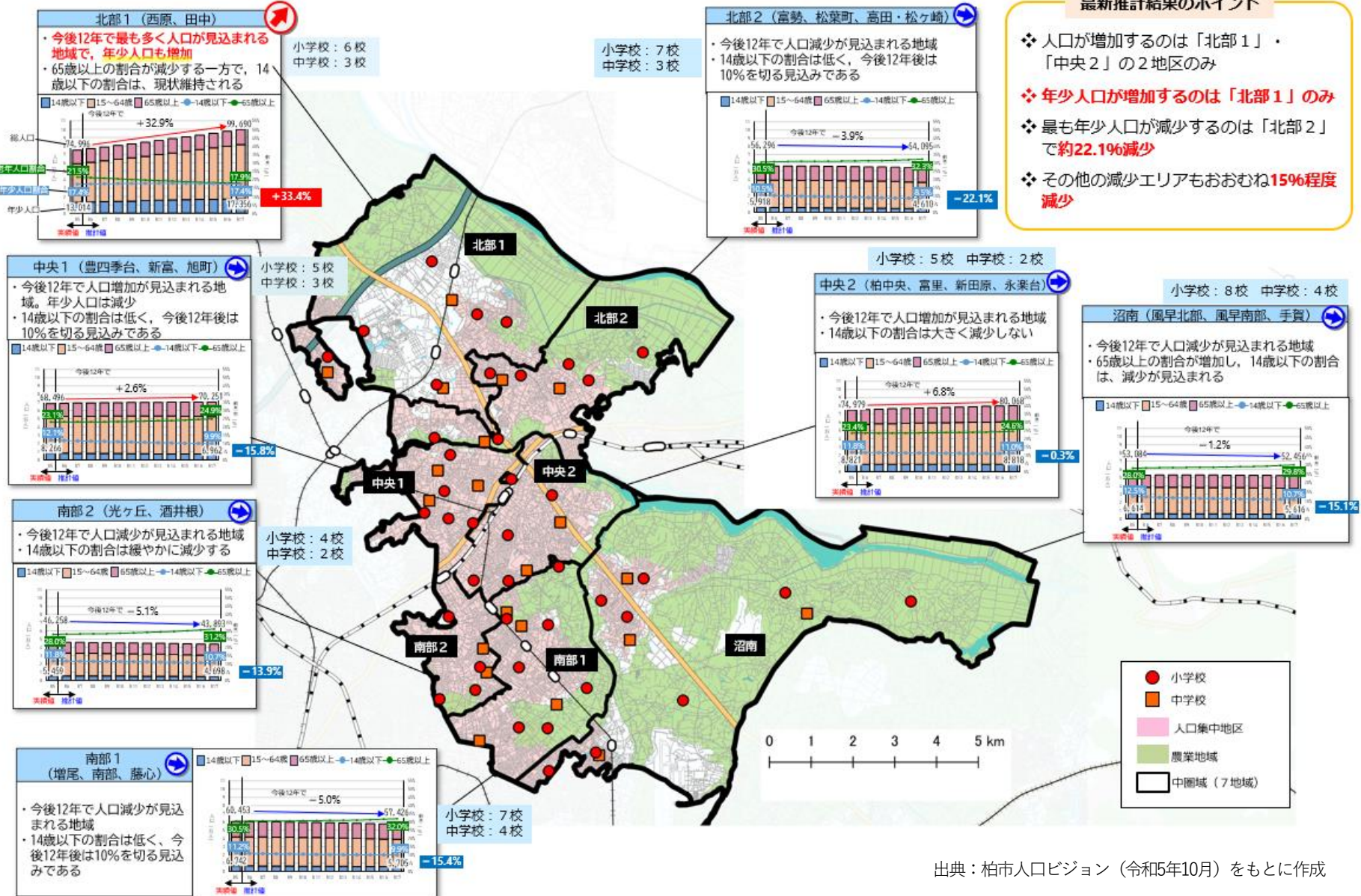
R5第1回 審議会



6-1 学びを支える教育環境 「将来を見据えた学校のあり方」



R5第1回 審議会

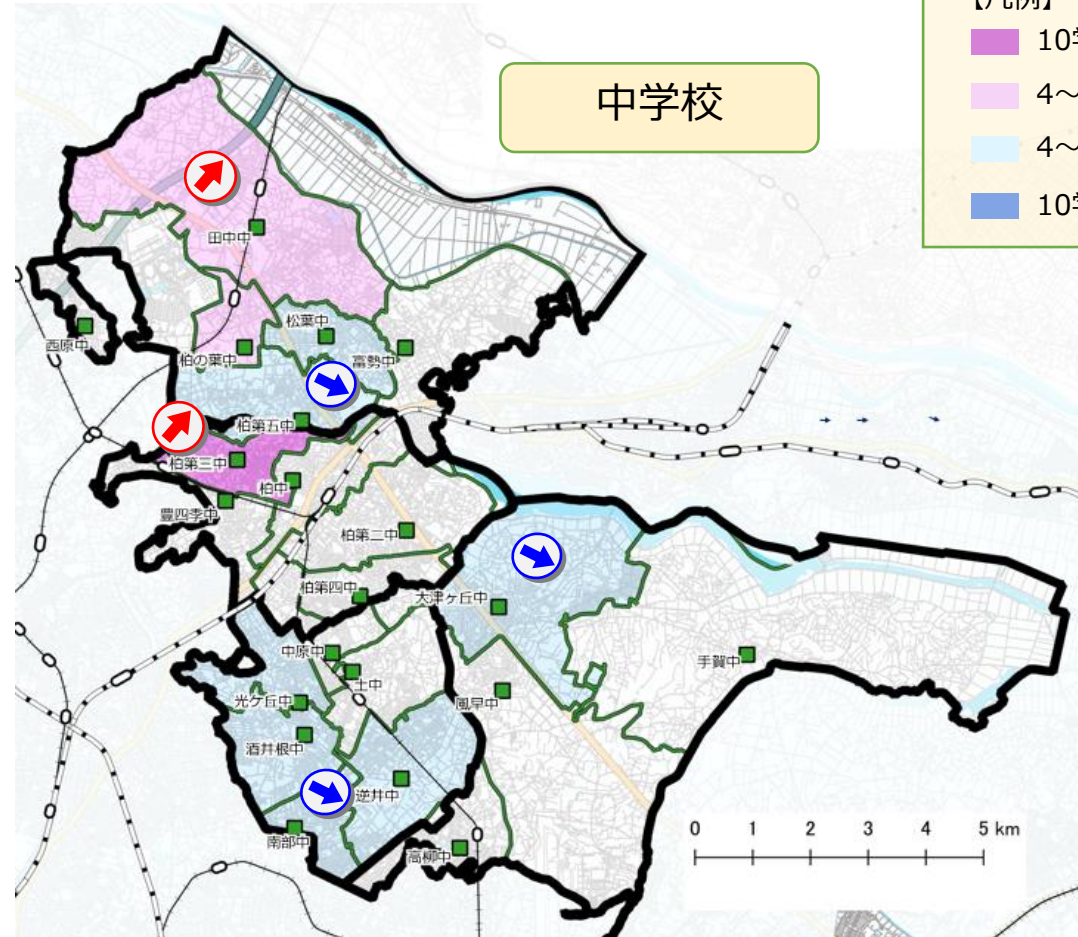
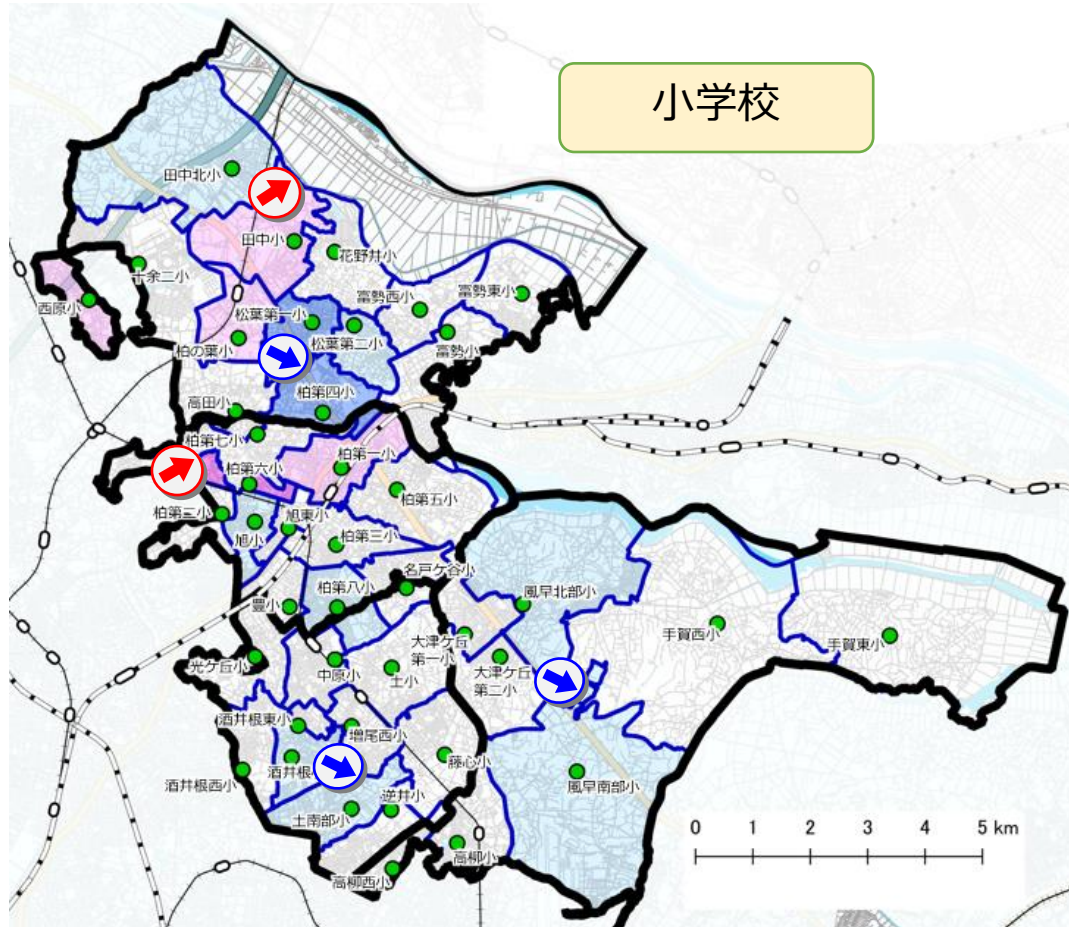


6-1 学びを支える教育環境 「将来を見据えた学校のあり方」



R5第1回
審議会

「現在」から「20年後」の学級数の変化



【凡例】

- 10学級以上増加
- 4～9学級以上増加
- 4～9学級以上減少
- 10学級以上減少

▶ 北部・中央部で増加が見込まれる一方，南部や東部で減少が見込まれる

6-2 学びを支える教育環境 「新しい時代の学びを実現する学校施設の整備」



「個別最適な学び」
「協働的な学び」の充実
「主体的・対話的で深い学び」の実現

地域との
共創

地域や社会と連携・協働した**共創空間**
他の公共施設等との**複合化・共用化**

新しい
時代の学び

生活
空間

健やかな学習環境,
快適な生活空間を確保する
空調設備の設置

環境
配慮

柏市役所ゼロカーボンアクション
プランに基づく
環境に配慮した施設づくり

避難所
対応

大地震や昨今の豪雨に対応する
避難所機能の強化

6-2 学びを支える教育環境 「新しい時代の学びを実現する学校施設の整備」



時代に求められる学校施設

多目的な学び，創造的な空間

読書・情報の組み合わせ
ラーニング・コモンズ



憩いの場，居場所としての空間

生活



災害時の避難所

安全



地域コミュニティの拠点

共創



省エネ，太陽光パネル

環境



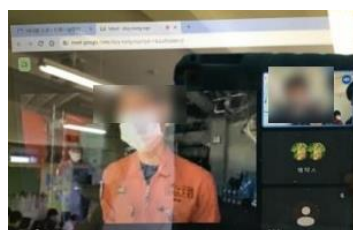
6-2 学びを支える教育環境 「新しい時代の学びを実現する学校施設の整備」



柏市における新しい時代の学び【現状】

【GIGAスクール】

令和2年度から1人1台端末のGIGAスクールを開始



【三面ホワイトボード】

令和元年度から実施している校舎長寿命化改良工事において、三面ホワイトボード、廊下側を可動式間仕切り壁として開放できる教室を整備



①主体的・対話的で深い学びを促す教室空間（3面ホワイトボード）



①ホワイトボード付き間仕切り



①隣の教室との開口部（教室背面）

6-2 学びを支える教育環境 「新しい時代の学びを実現する学校施設の整備」



環境配慮

柏市役所ゼロカーボンアクションプランにおいて、照明のLED化、太陽光発電設備の設置、ZEB（ゼブ）の推進

zero
carbon
2050

柏市役所ゼロカーボンアクションプラン

2023年2月
柏市

第4章 温室効果ガスの削減目標

Ⅲ 主な取組等の内容及び指標

▶照明のLED化

2030年度までに、代替が困難な照明を除き、公共施設の照明のLED化率を100%にします。

◆指標

項目	現状（2021年度）	目標（2030年度）
LED照明化率	約27%	100%



LED照明の省エネ効果は非常に高く、蛍光灯など既存の照明器具からLEDに付け替えるだけで、50%以上の省エネ効果が見込まれます。



▶太陽光発電設備の設置

公共施設の新設、長寿命化改良又はリノベーションの際には、原則として太陽光発電設備を設置するとともに、既存施設についても太陽光発電設備の設置を検討していきます。設置に当たっては、PPAやリースなどの方式も活用します。

◆指標

項目	現状（2021年度）	目標（2030年度）
太陽光発電設備の設置容量	413.73kW	3,500kW

太陽光発電設備の設置により、CO₂の排出削減ができるだけでなく、蓄電池・電気自動車と組み合わせることで災害時のレジリエンス強化にもつながります。

◆PPAとは
Power Purchase Agreement（電力購入契約）の略。事業者が需要家の屋根や敷地に太陽光発電システムなどを無償で設置・運用し、発電した電気を設置した事業者から需要家が購入し、その使用料を支払う仕組みのことです。



自治体が設置するメガソーラー（長崎市）

第4章 温室効果ガスの削減目標

Ⅲ 主な取組等の内容及び指標

▶公用車の電動化

特殊用途車（救急車、消防車他）等を除き、2030年度までに公用車の電動化を進め、2023年度からの新規に導入する車両は100%電動車とします。また、災害発生に伴う停電を想定し、一部をハイブリッド自動車とし、50%以上を電気自動車とする予定です。

◆指標

項目	現状（2021年度）	目標（2023～2030年度）
新規購入車両の電動車率※	0%	100%

※特殊用途車等を除く



本市では、2022年度（令和4年度）末時点で、電気自動車7台を導入しています。

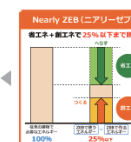
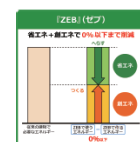
◆電動車とは
電気自動車（EV）、燃料電池自動車（FCV）、プラグインハイブリッド自動車（PHEV）、ハイブリッド自動車（HV）を指します。ハイブリッド自動車についても、100V用電源コンセントが利用可能な車種も存在します。

▶ZEB（ゼブ）の推進

公共施設を新設する際は、2030年度までに、原則として「ZEB Ready」以上とします。また、公共施設の長寿命化改良又はリノベーションの際においても、ZEB達成の可能性について、必ず検討することとします。

◆指標

項目	現状（2021年度）	目標（2020～2030年度）
新設、長寿命化改良又はリノベーション時におけるZEBの検討率	0%	100%



◆ZEB（ゼブ）とは
Net Zero energy building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目標とした建物のことです。ゼロエネルギーの達成状況に応じて、ZEBシリーズが定義されています。

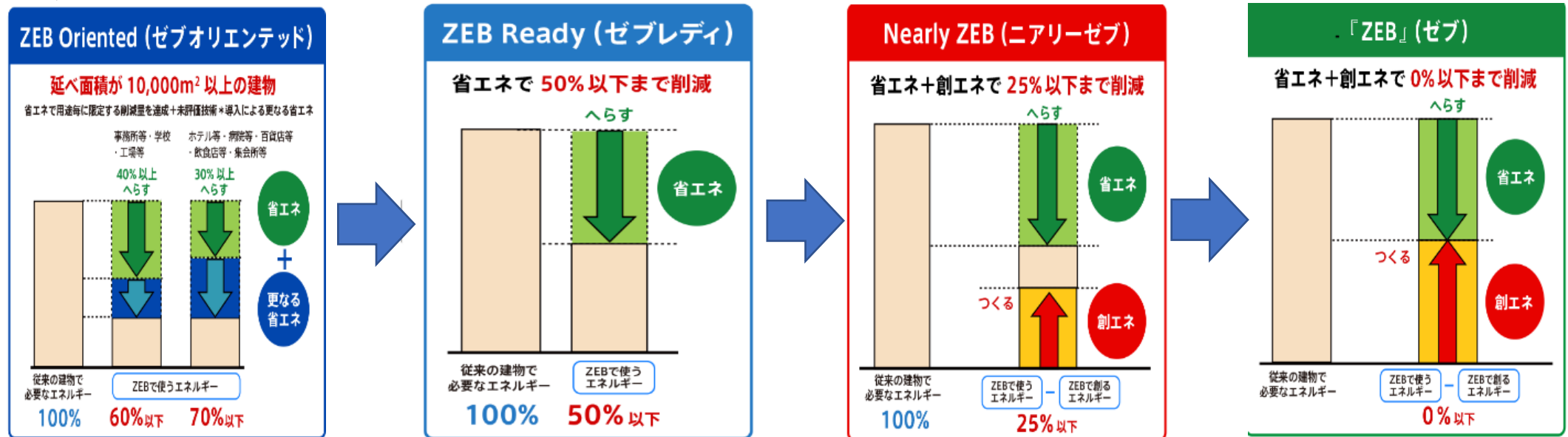
6-2 学びを支える教育環境 「新しい時代の学びを実現する学校施設の整備」



環境配慮

校舎長寿命化において、「ZEB Ready」を取得

現行の長寿命化（低炭素化指針反映）



z e b 度 ← 低 → 高 z e b 度

Nearly ZEB(創エネ25%)には、発電場所（校舎屋上）が狭いことから、ZEB Ready（省エネ50%）を目指す。

6-2 学びを支える教育環境 「新しい時代の学びを実現する学校施設の整備」



避難所対応

▶長寿命化改良工事・新增築に伴う太陽光設置

例：柏第四中学校校舎長寿命化改良工事 50KW
太陽光発電での電流をコンセント用に変換
コンセント3口×3箇所 総4.5KW

▶屋内運動場非常用電源の接続口の設置

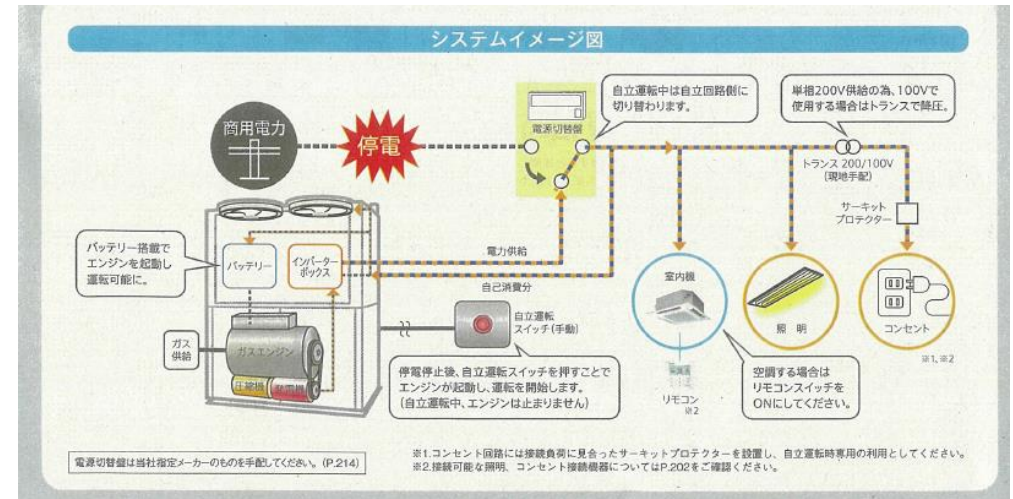
移動式の発電機を外部接続口に接続することにより
コンセント3箇所 総6KW

▶体育館空調設備 自立型空調設備

災害時にも空調及び照明を使用できるよう、自立型空調設備を設置

▶マンホールトイレなどの対応

下水道区域においては、プールの水などを利用して、外部にマンホールトイレを設置



6-2 学びを支える教育環境 「新しい時代の学びを実現する学校施設の整備」



空調設備

【普通教室・特別教室】

平成29年度に普通教室にリースで設置、
平成30年度に一部を除く特別教室へ設置。



【屋内運動場】

令和6年度に中学校屋内運動場、
令和7年度に小学体屋内運動場設置予定。

【給食室】

学校給食室についても、令和6・7年度にリースにより設置予定。

空調設置による教育環境向上の効果例

学力・集中度向上（快適環境で授業に集中！）

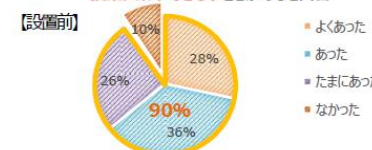
- 1位** 授業に集中できるようになった
2位 快適に過ごせるようになった
3位 体調が安定した

＜愛媛県松山市生徒アンケートより＞

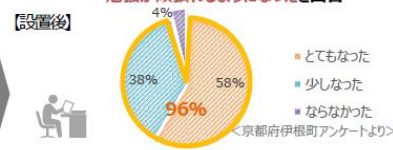


＜埼玉県越谷市教職員アンケートより＞

室温が高く90%の児童が授業に集中できないことがあると回答



空調設置後96%の児童が勉強が頑張れるようになったと回答



＜京都府伊根町アンケートより＞

- ・難しい問題に取り組んでいる時に集中してできた。＜岐阜県中津川市・生徒＞
- ・教師と児童お互いに気持ちよく学習に取り組めた。＜京都府伊根町・教職員＞
- ・もっと勉強したいと思うようになった。＜沖縄県・児童＞

《正答率の改善など学力の向上が見られた事例》



健康面の改善（「災害的な暑さから児童・生徒を守る空調。」）

《熱中症による保健室来室者数の減少事例》



○平成30年6月末より空調稼働

○空調設置後7・9月に教室内で熱中症に罹患し保健室に来室した生徒数は「0」。

- ・授業中の熱中症発症者が減少した。
＜山形県鶴岡市・教職員＞
- ・救急搬送される生徒がいなくなった。
＜福岡県中間市・教職員＞
- ・給食時、児童の意欲が増し、美味しく残さず食べられるようになった。
＜京都府伊根町・教職員＞

【その他の事例】

- ・2学期の始業を早められた。＜福岡県芦屋町＞
- ・発達障がい児童が落ち着いて学習可能に。＜山形県天童市＞
- ・問題行動が減少した。＜三重県名張市＞
- ・皮膚の疾患の生徒の症状が緩和。＜岐阜県都市＞

文部科学省アンケート「施設整備による教育環境向上の効果について」より作成

6-2 学びを支える教育環境 「新しい時代の学びを実現する学校施設の整備」



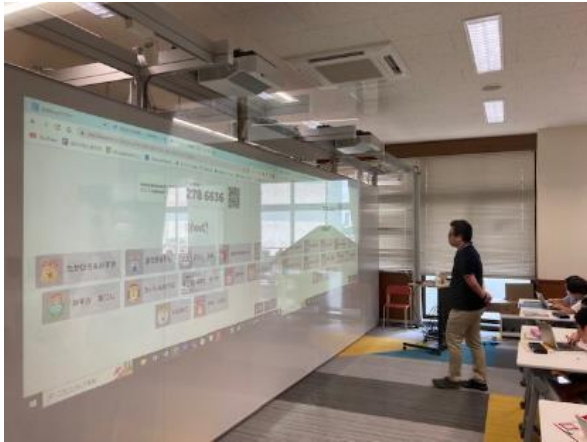
時代の変化に合わせた施設の活用

【既存コンピューター室の活用

(東京学芸大学附属竹早小中学校での事例)】

- ▶ 前面ホワイトボードかつ全面投影できるプロジェクターの導入
- ▶ 可動・収納できる机やイスにより、いろいろな授業ができる教室
- ▶ 360° カメラと集音マイク・スピーカーの設置により、当該教室が市内の学校や地方の学校、海外の学校を **つなぐ** 教室となる。

【参考】 東京学芸大学附属竹早小中学校 SUGOI部屋



可動式の机やイス
座りながらの授業
いろいろな利用が可能



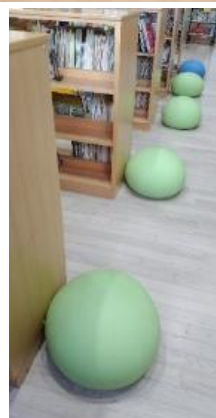
海外や農家
ともつながる

6-2 学びを支える教育環境 「新しい時代の学びを実現する学校施設の整備」



【身近に本に触れられる環境（田中北小学校での事例）】

子どもたちの日常動線となる中央階段、2階昇降口に面した位置に図書館（ラーニングセンター）を配置し、身近に本に触れることのできる環境。書架・閲覧コーナーは間仕切りを設けず、一体的な利用が可能。



【子どもや地域が利用しやすい図書室（土小学校での事例）】



子どもたちの好きな場所であり、学校の魅力の一つでもある図書室を子どもたちや地域の方が利用しやすいよう、近くに昇降口や地域交流エリアを配置するなど工夫した。



6-2 学びを支える教育環境 「新しい時代の学びを実現する学校施設の整備」



【子どもの憩いのスペース（田中北小学校での事例）】

校舎内の廊下に7か所の小さな居場所「DEN」があり、各場所で色やベンチの形状が異なる。休憩時間にちょっと座って、一人で休んだり、友達とおしゃべりしたりすることができる。



廊下の柱の横のくぼみ部分がベンチ

廊下にあるDEN

【公共施設との複合化イメージ】

他の公共施設（図書館等）との複合化・共用化を図り、多様な「知」が集積し新しい価値を生み出す施設として整備することで、児童生徒や地域住民にとって多様な学習環境を創出するとともに、施設の有効活用を図る。



出典：令和4年3月文科省「新しい次第の学びを実現する学校施設の在り方について（最終報告）」

6-3 学びを支える教育環境 「安全・安心な学校施設の充実」



校舎長寿命化改良工事概要（土小学校）



校舎外観（改修後）

学校規模：13（3）学級、428人

※括弧内は特別支援学級数を表す。

敷地面積：12,302㎡

保有面積：校舎 4,547㎡／体育館 720㎡

構造：校舎 RC造3階建／体育館 S造2階建

整備概要：長寿命化改修（校舎）、屋外環境整備



校舎外観（改修前）

■改修整備の狙い

学習指導要領に対応した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、老朽化した施設の教育環境の向上と老朽化対策を一体的に進めるため、市の改修モデルとなるように学校関係者の対話を重ね、整備が行われた。

■改修整備の内容

学習環境・生活環境の向上とともに、地域とともにある学校づくりに向け、普通教室、特別教室、地域開放の各エリアに集約して再配置されている。分散していた昇降口についても図書館に隣接する位置に集約している。

普通教室については、学習指導要領に合致しない設え、狭い、収納が少ない等の課題に対応するため、新たな設えが計画されて、創造的で柔軟な空間が実現されている。

このほか、バリアフリー化のためエレベーター新設、トイレの増設などが実施されている。

6-3 学びを支える教育環境 「安全・安心な学校施設の充実」



柏市立土小学校

教育環境の向上



①主体的・対話的で深い学びを促す教室空間（3面ホワイトボード）



①ホワイトボード付き間仕切り



①隣の教室との開口部（教室背面）



②メディアセンターの機能向上



③地域交流エリアの諸室



④バリアフリー対応

①主体的・対話的で深い学びを促す教室空間に転換

3面ホワイトボードやプロジェクターが各教室に整備され、教室と廊下間の間仕切りは全面開放できる。ホワイトボードの活用や、収納やロッカーの増設などにより、グループ学習等の柔軟な活動が展開できる空間となっており、また、教室背面には開口部を設けて、1学年2学級のユニットを構成し一体的に活動ができるよう計画した。

②メディアセンターの機能向上

メディア機能を付加し、調べ学習を容易に行える環境を整えるとともに、子供たちや地域の方が利用しやすいよう図書室の近くに集約した昇降口や地域交流エリアを配置するなど工夫した。

③地域交流スペース

地域連携の充実とセキュリティを考慮して単独の棟に地域関係諸室を集約した。1階に地域交流にも活用できる多目的スペース等、2階に学童保育、3階に郷土資料室を配置した。

④バリアフリー対応

全ての普通教室にアクセスできる位置にエレベーターの新設とともにトイレを増設した。分散していた昇降口を1つに集約し安全で明るい昇降口を確保した。また、体育館や駐車場から校舎へアクセスできるスロープを設置した。

柏市立土小学校

体育館・駐車場から校舎へアクセスできるスロープ
→一体的整備事例Ⅰ (P.28)

各教室へアクセスしやすい位置にエレベーター設置
→一体的整備事例Ⅰ (P.31)

まとまりのない教室の再配置
→一体的整備事例Ⅰ (P.31)

昇降口を増築し、4つの昇降口を集約化
→一体的整備事例Ⅰ (P.31)

学校と地域開放エリアをつなぐデッキの設置
→個別具体事例⑤ (p.69)

地域関連諸室を1棟に集約
→一体的整備事例Ⅰ (P.31)

道路拡幅による安全な通行経路の確保
→個別具体事例② (P.65)

新しい学びのスタイルを実現する教室空間への転換
→個別具体事例②-2 (P.54)

可動間仕切り

教室間の壁を一部撤去

壁3面にホワイトボードを設置

普通教室

普通教室

●事業費

総事業費	約14.8億円
・設計監理費	約1.1億円
・工事費	約12.7億円
・仮設校舎設置費	約1.0億円
活用した補助事業	・学校施設環境改善交付金

●事業費	
総事業費	約14.8億円
・設計監理費	約1.1億円
・工事費	約12.7億円
・仮設校舎設置費	約1.0億円
活用した補助事業	・学校施設環境改善交付金

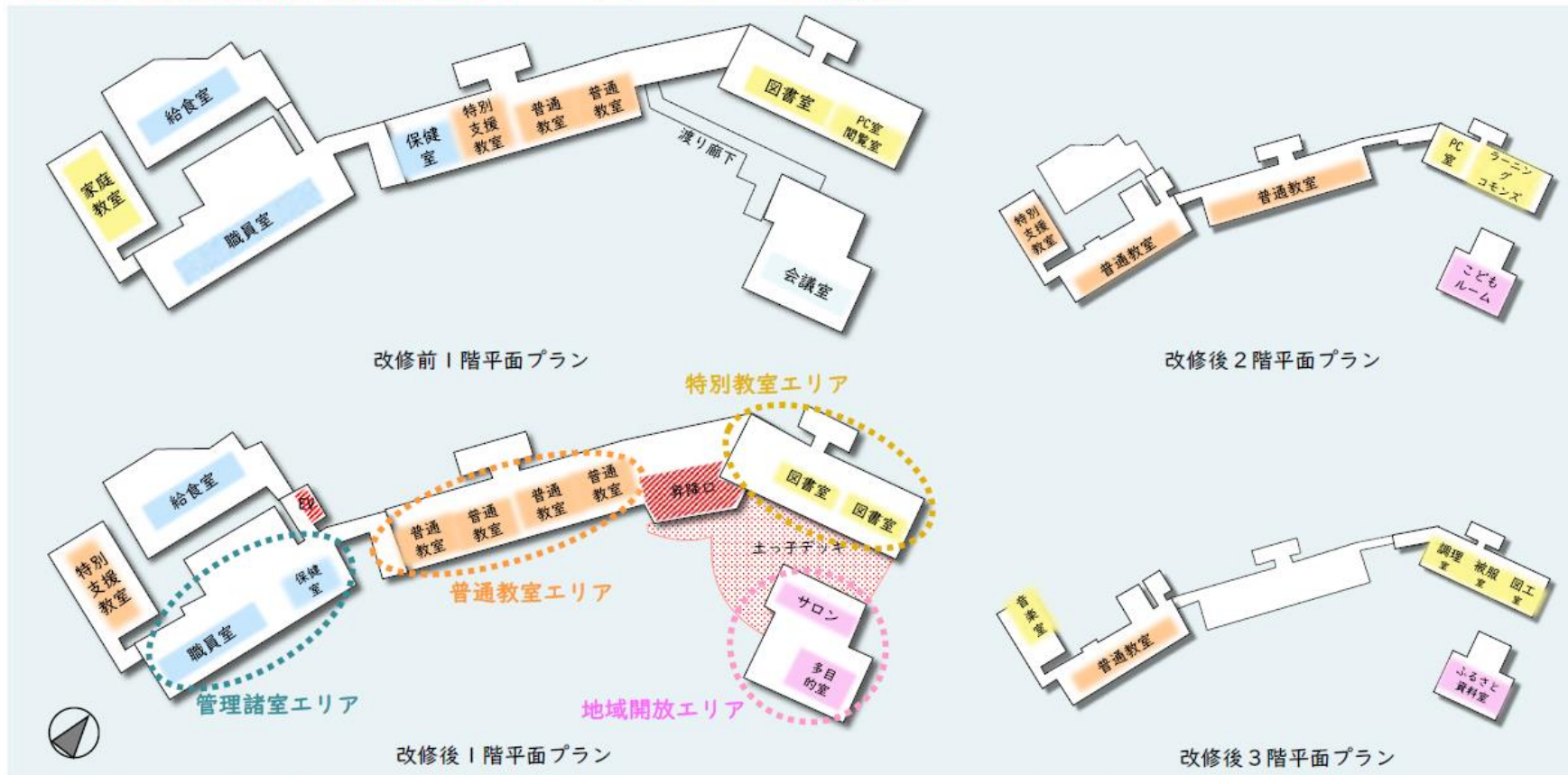
6-3 学びを支える教育環境 「安全・安心な学校施設の充実」



柏市立土小学校

スペースの集約・再配置

地域との連携と機能の強化を図るゾーニング・スペース再配置



■ 4つのエリアに再構成

校舎の増築を繰り返してきたため、諸室の配置や動線について教育面での関連性が希薄な状態であった。このため、大きく普通教室エリア、特別教室エリア、管理諸室エリア、地域開放エリアの4つのエリアに整理し、普通教室エリアは、教育面や管理面から管理諸室の近くに配置した。

普通教室は学年単位でまとめ、一体的に授業がしやすいようにした。分散していた昇降口を集約し、地域の利用も考慮して図書室の近くに配置した。

■ 各エリアの連携と機能の強化

全ての普通教室にアクセスしやすい位置にエレベーターを新設するなどの配慮をした。

また、地域サロンやPTA活動室、学童保育ルームなどの諸室を独立する棟に地域開放エリアとして集約して、休日等に円滑に利用できるよう運営面やセキュリティ面に配慮した。また、防災の観点から、搬出入が容易で、避難所となる体育館に近い場所に防災倉庫を移設した。

6-3 学びを支える教育環境 「安全・安心な学校施設の充実」



長寿命化改良工事（校舎）実績

校舎長寿命化改良工事については、柏市学校施設個別施設計画策定後、土小学校から改修工事を実施している。

学校を運営しながら改修や長期休業期間を利用した計画では 工期や工事内容の制限があり、全面的な改修を行うことが困難であったため、仮設校舎を設置し実施している。

当該改修工事の際は、主体的・対話的で深い学びを促す教室空間として、三面ホワイトボードや間仕切りの改修、バリアフリー対応として、エレベーターや渡り廊下の設置などを実施している。

学校名	実施年度
土小	R1～R2
田中小	R4～R5 (R2～R3に建替工事を実施)
西原小	R5～R7
柏四中	R6～R7
高田小	R6設計中

長寿命化改良工事（屋内運動場）実績

屋内運動場長寿命化改良工事については、柏市学校施設個別施設計画策定前から先行して改修工事を進めている。

令和5年度までで、小学校11校、中学校で7校実施している。

既存施設を活用し、多目的トイレの設置など、必要最小限の増築に留めている。

小学校		中学校・高等学校	
H28	富勢小	H28	柏二中
H29	酒井根小	H29	南部中
H30	光ヶ丘小，高田小， 大津一小	R1	酒井根中
R1	風早北小，柏二小	R2	田中中
R2	旭小	R3	土中
R3	名戸ヶ谷小	R4	富勢中
R4	酒井根東小	R5	松葉中
R5	豊小	R7予定	大津ヶ丘中
R6予定	松葉二小，柏七小	※柏四中は校舎長寿命化の兼合いで調整中	
※田中小，手賀西小は過去に 屋根・外壁工事実施済み			

6-3 学びを支える教育環境 「安全・安心な学校施設の充実」



屋内運動場長寿命化改良工事概要 外部改修工事

1 屋根改修（カバー工法）



2 外壁改修・外部開口の更新



改修前



改修後

6-3 学びを支える教育環境 「安全・安心な学校施設の充実」



屋内運動場長寿命化改良工事概要 内部改修工事

3 床, 壁など内装改修 4 多目的トイレの設置 5 照明器具LED化



改修前



改修後



床改修



断熱材



内壁改修



多目的トイレ

6-3 学びを支える教育環境 「安全・安心な学校施設の充実」



田中小学校 建替え校舎（令和4年度）



柏の葉小学校 増築校舎（令和4年度）



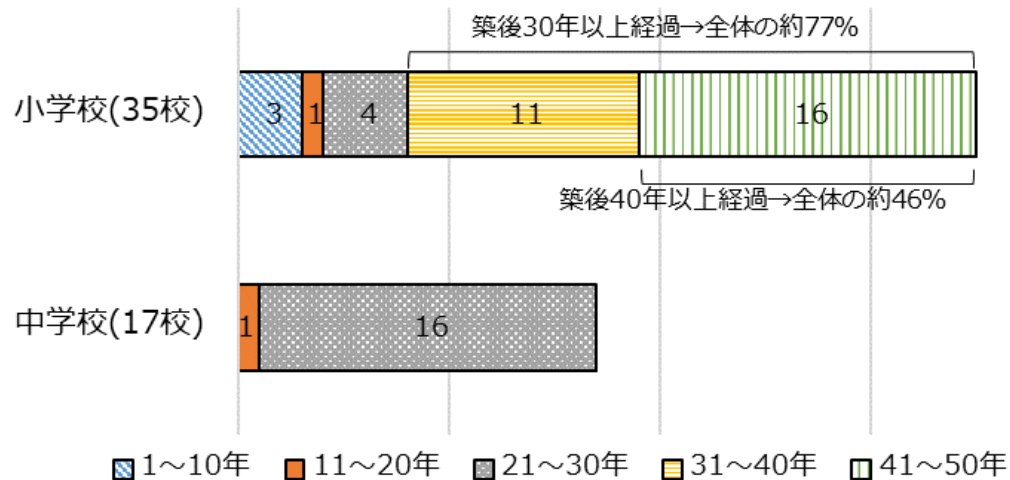
6-4 学びを支える教育環境 「心身の健康を支える給食の提供」



自校方式調理場の老朽化

本市では、昭和39年から学校給食を開始しているため、施設の老朽化が進行。特に、給食開始が早かった小学校では、築30年以上経過した施設は全体の約77%、さらに築40年以上経過した施設は全体の約46%を占めており、老朽化した施設及び設備の大規模な改修工事が必要になっている。

給食施設の経過年数（単位：校）



出典：令和6年3月「柏市学校給食将来構想 改訂版」より

学校給食衛生管理基準への適合

学校給食における衛生管理を徹底するため、施設や設備、調理等に関する基準「学校給食衛生管理基準」が定められているが、多くの調理場は、現在の学校給食衛生管理基準の制定より前に建築した施設であり、この基準を満たしていない。現在は、作業方法の工夫等によって適切な管理に努めており、調理作業の負担が大きくなっている。

学校給食衛生管理基準への適合状況（自校方式）

1. 汚染作業区域と非汚染作業区域が部屋単位で区分されている。
→ 19校／52校（37%）
2. ドライシステムが導入されている。
→ 18校／52校（34%）
3. エアコンがあり、調理室等の温度や湿度が適切に管理されている。
→ 8校／52校（15%）
4. 下処理用のシンクが3槽式構造になっている。
→ 42校／52校（81%）

出典：令和6年3月「柏市学校給食将来構想 改訂版」より

6-4 学びを支える教育環境 「心身の健康を支える給食の提供」

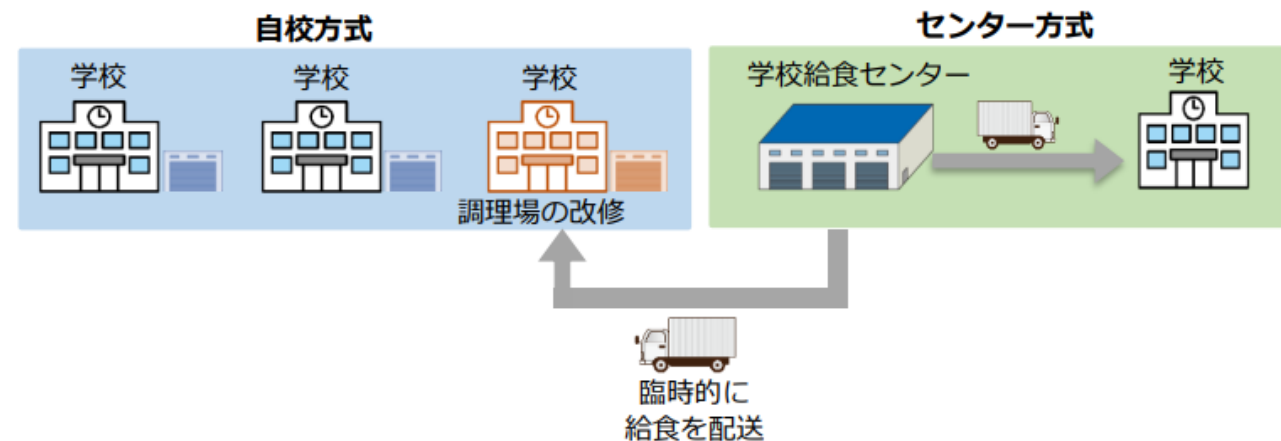


【自校方式とセンター方式の調理内容の比較】

	自校方式	センター方式
献立内容	小学校と中学校は別献立	小学校と中学校は同一の献立 (中学校は分量や個別製品で調整)
主菜	グラタンやコロッケなど、手の込んだ献立も 手作りでできる(一部半製品を使用する)	グラタンやコロッケは半製品(衣つき等)を 使用して調理することが多い
主食	ごはん:炊飯している パン:トーストや揚げパン等が調理できる	ごはん:炊飯を委託している パン:揚げパンのみ調理できる
果物	カットしている	一部カットしている
デザート	調理している(一部加工品を使用している)	加工品を使用している
提供例		

出典：令和6年3月「柏市学校給食将来構想 改訂版」より

【施設の改修や更新時の配送イメージ】



「柏市学校給食施設整備計画」を踏まえ、臨時的な給食提供にも対応可能な学校給食センターの整備を最優先に進めるとともに、自校方式調理場については、**施設の改修や更新時に学校給食センターから給食を提供する体制**を確保

出典：令和6年3月「柏市学校給食将来構想 改訂版」より



柏市学校における食育方針

基本理念

食の大切さを学び、生きる力と豊かな人間性を育む

学校給食は「生きた教材」と言われるように、各教科等の食に関する指導（授業）や行事等に関連付けた献立を提供することで、学習内容等に対する興味や関心、理解がより深まるなど、教育的効果を高めることができるため、「+給食」を合言葉に食育を推進していく。

基本目標

食べる力を育む

健康な心身を育むためには、規則正しい生活と望ましい食習慣が不可欠であるため、適正体重の理解、成長期に必要な栄養や正しい食事のとり方など、健全な食生活の実践に向けた取組を推進する。

豊かな心を育む

望ましい食習慣の形成とともに、五感で感じる学びを通して他人を思いやる心、感動する心等の豊かな人間性を育むため、共食の楽しさや大切さ、食事の作法やマナー、食料の生産から消費までの「食」の循環についての理解を深める取組を推進する。

郷土愛を育む

日本の食文化を守り伝えていくため、郷土料理や行事食の提供に努める。また、地場産物の良さを知り、味わうことを通して、地域への興味・関心を高め、愛着と誇りを育てる取組を推進する。



見える調理場イメージ